

マネへのオマージュ：画家を取り巻く人々

10:30~10:40 開会の挨拶 永井隆則（京都工芸繊維大学）／注意事項の説明 今井祐子（福井大学）

第1セッション

10:40~11:30 趣旨説明と講演 吉田典子（神戸大学名誉教授） マネとゾラ：1870年代以降を中心に

11:35~12:05 松浦菜美子（関西学院大学） マネとマラルメ：非個人性をめぐって

12:05~12:15 質疑応答

12:15~13:10 昼食休憩

第2セッション

13:10~13:50 招待講演1 三浦篤（東京大学） マネとファンタン＝ラトゥール：その友情と共闘

13:55~14:35 招待講演2 坂上桂子（早稲田大学）

マネとモリゾ：描かれた画家—モデルとしてのベルト・モリゾ

14:40~15:10 井口俊（東京大学）

マネと画商ルイ・マルティネ：画業初期における美術市場との関わり

15:10~15:20 質疑応答

15:20~15:40 休憩

第3セッション

15:40~16:10 工藤弘二（ポーラ美術館）

マネとセザンヌ：「マネとポスト印象派」展について

16:15~16:45 藤原貞朗（茨城大学）

生誕百年展以後のマネ：1930年代のフランスと1960年代のアメリカ

16:45~16:55 質疑応答

16:55~17:15 休憩

パネルディスカッション 17:15~18:30

司会：稲賀繁美（京都精華大学）

パネリスト：吉田典子、松浦菜美子、三浦篤、坂上桂子、井口俊、工藤弘二、藤原貞朗

18:30~18:35 閉会の挨拶 大久保恭子（京都橘大学）



主催：日仏美術学会

写真：オルセー美術館 ©Yoshida Noriko

学会事務局 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3-9-25

日仏会館504号室 TEL/FAX：03-3440-1686

お問合せ先：今井祐子 (ymay2562@u-fukui.ac.jp)

吉田典子（よしだ・のりこ）

神戸大学名誉教授。専門は近代フランスにおける文学と絵画。京都大学文学研究科フランス語フランス文学専修博士後期課程満期退学。博士（文学）。神戸大学国際文化研究科教授を退職。特にボードレール、ゾラ、マネ、印象派についての論文多数。訳書に『セザンヌ＝ゾラ往復書簡1858-1887』（法政大学出版局、2019年）、ゾラ『ボヌール・デ・ダム百貨店』（藤原書店、2004年）など。

松浦菜美子（まつうら・なみこ）

関西学院大学文学部助教。専門はマラルメ研究、およびフランス近代詩研究。京都大学文学部卒業。2018年にソルボンヌ大学において博士号取得。論文に「Genèse d'un paysage mythique : le faune et la mythologie de Mallarmé」（2020年）などがある。

工藤弘二（くどう・こうじ）

東北大学文学研究科博士課程単位取得退学。国立新美術館アソシエイトフェローを経て、現在、ポーラ美術館学芸員。担当した展覧会に「セザンヌーパリとプロヴァンス」（2012年、国立新美術館）、「セザンヌー近代絵画の父になるまで」（2015年、ポーラ美術館）、共著に『セザンヌー近代絵画の父とは何か？』（2019年、三元社）など。

藤原貞朗（ふじはら・さだお）

茨城大学教授、五浦美術文化研究所所長。大阪大学大学院で西洋美術史を専攻。リヨン第二大学留学を経て現職。主な研究課題は近現代フランス美術史およびアジア考古学史。主な著書に『オリエンタリストの憂鬱』（2008年）、『山下清と昭和の美術』（共著、2014年）。今回の発表の関連論文として、「両大戦間のエドゥアール・マネ 生誕百年記念展の転生とアナクロニズム」、稲賀繁美編『映しと移ろい』（2019年）。



三浦篤（みうら・あつし）

東京大学大学院総合文化研究科教授。東京大学大学院人文科学研究科、パリ第4大学で西洋近代美術史を専攻。著書に『近代芸術家の表象—マネ、ファンタン＝ラトゥールと1860年代のフランス絵画』（2006年）、『エドゥアール・マネ西洋美術史の革命』（2018年）、『移り棲む美術—ジャポニスム、コラン、日仏近代洋画』（2021年）などがある。

坂上桂子（さかがみ・けいこ）

東京都生まれ。早稲田大学文学学術院教授。主著に『ベルト・モリゾ ある女性画家の生きた近代』（小学館、2006年）、『ジョルジュ・スーラ 点描のモデルニテ』（ブリュッケ、2014年）、訳書にリンダ・ノックリン『絵画の政治学』（ちくま学芸文庫、2021年）等。

井口俊（いぐち・しゅん）

東京大学ほか非常勤講師。専門は19世紀フランス絵画史。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学。2021年に「フランス第二帝政期の前衛絵画受容史—美術批評とサロン戯画に見るエドゥアール・マネとその周辺画家たち」で博士号（学術）を取得。

Hommage à Manet : les figures autour du peintre

稲賀繁美（いなが・しげみ）

京都精華大学、国際文化学部・学部長。マネの盟友だった日本趣味の旅行者、美術批評家として名を残すテオドール・デュレについて1988年パリ第7大学（当時）に新課程博士論文を提出。その一部は『絵画の黄昏』（1997年）に日本語でも提供。また『絵画の東方』（1999年）や放送大学・印刷教材『日本美術史の近代とその外部』（2016年）で、マネと錦絵版画などについても、いくつかの仮説提案をなしている。とりわけマネの死後売立の政治学・市場形成戦略については、アムステルダム国際美術史学会のおり、マイケル・フリードと議論を闘わしたが、その成果は、韓国の『美術史論壇』に掲載のほか、永井隆則編『探求と方法』に日本語版訂正・改訂版が再録されており、その英語原文（リュブリアナ国際美学会発表：1998年）も、脱稿後四半世紀を経て、近く刊行予定である。

写真：マネのアトリエがあった建物（4, rue de St-Petersbourg, Paris） ©Yoshida Noriko